

事業名：戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）第3期／スマートモビリティプラットフォームの構築／移動手段の手当てが地域作り・活動に与える福祉的効果の検証

令和7年度成果報告書

2026年3月



受託者名：(一財)日本自動車研究所
(株)日本能率協会総合研究所

目次

はじめに

1. JARIコンソがSIP事業で目指すところ
2. 調査フィールドの取り組み
3. 調査フィールドの紹介 (JARI・JMAR)
4. 成果目標

I. 養父市での取り組み (JARI)

- I-1. 養父市について
- I-2. 養父市公共交通の再構築・拠点作りに向けた研究開発の目標
- I-3. 養父市「小さな拠点（関宮地域に建設中）」について
- I-4. デマンド交通実証実験の概要
（兵庫県養父市関宮地域）
- I-5. 養父市関宮地域の公共交通再構築に向けた検討体制
- I-6. デマンド交通実証実験（兵庫県養父市関宮地域）
- I-7. 2023年度のデマンド交通実証実験
- I-8. 2024年度のデマンド交通実証実験
- I-9. 養父市介護福祉部門との連携
- I-10. 養父市での取り組みの位置づけ・スケジュール

II. 仁淀川町での取り組み (JARI)

- II-1. 仁淀川町について
- II-2. 地域活動を支える移動・拠点作りに向けた研究開発のアウトプット・目標
- II-3. 高知県仁淀川町のフレイル予防活動
- II-4. フレイル予防活動を支えるモビリティを手当て
- II-5. 住民主体の近距離輸送（高知県仁淀川町池川地域）
- II-6. 仁淀川町「くるりんバス（町内巡回バス）」調査走行の概要
- II-7. 仁淀川町での取り組みの位置づけ・スケジュール

III. 北海道池田町、静岡県函南町、藤枝市、千葉県松戸市での取り組み (JMAR)

- III-1. 社会的背景
- III-2. 研究開発内容
- III-3. 介入内容
- III-4. 想定する事例
- III-5. 取組状況
- III-6. 調査の2本柱
- III-7. 各市町のアウトプット・取り組み
- III-8. 取組の位置づけ・スケジュール

1. JARIコンソがSIP事業で目指すところ

■地域交通のリ・デザインとモビリティ確保に向けた取り組みが進んでいる

- ・地域公共交通のリ・デザイン(国土交通省)
- ・交通空白地解消プロジェクト
- ・SIPスマートモビリティプラットフォーム など..

■モビリティの確保は重要。だが、本当に「使われるか?」、住民のウェルビーイングに繋がっているのか。

■モビリティは、移動の「手段」であり「目的」ではない。

- ・移動の需要を増やすには、目的地を創出すること。そのためには、介護・福祉などを含むまちづくりと併せて検討が必要。



各調査フィールドで移動の手段と目的を併せて提供し、住民に与える影響を可視化

- ・住民の行動変容の観察
- ・QoL(生活の質)の変化の評価
- ・地域全体の変容の可視化

2. 調査フィールドでの取り組み

□兵庫県養父市（JARI）

- ・過疎地域に小さな拠点を構築
- ・市・NPO・交通事業者の連携のもと、「拠点建設＋交通再編」をセットにした実証実験を実施中
 - 地域住民の目線での地域の変化を観察

□高知県仁淀川町

- ・NPOによるフレイル予防活動→まちづくりへの展開
- ・お出かけ場所の創出と交通手段の確保
 - 地域全体の変容を可視化

□北海道池田町、静岡県函南町・藤枝市、千葉県松戸市（JMAR）

- ・高齢者福祉の専門分野との連携
 - 自立した買い物による介護費用削減
 - 移動手段と目的のセットによる生活・心身の変化の観察

3. 調査フィールドの紹介（JARI担当）

□兵庫県養父市(過疎地域型)

生活サービスと地域の持続性向上に向けて「小さな拠点」を中心とした地域づくりが進行中。

- ・人口:20,808人（高齢化率:40.73%）（R7年3月）
- ・面積:422.78km²（面積の約75%が山林）

□高知県仁淀川町(過疎地域・中山間地域型)

フレイル予防活動のトップランナー、お出かけをあきらめないまちづくりを目指した仲間作り。

- ・人口:4,357人（高齢化率:40.73%）（R7年7月）
- ・面積:333km²（面積の約90%が山林）

3. 調査フィールドの紹介（JMAR担当）

□北海道池田町(過疎地域型)

「行きたい場所」の創出と、「行きたい」を実現する移動サービスの構築を推進中。

- ・人口:5,837人（高齢化率:45.0%）（R7年7月）
- ・面積:371.9km²（地勢は平坦、山岳地帯でも海拔100m程度）

□静岡県函南町(地方都市型)

住民の暮らしに根付くモビリティの活用を目指し、住民との合意形成・運転ボランティアを養成中。

- ・人口:36,006人（高齢化率:33.2%）（R7年4月）
- ・面積:65.16km²（山間地、丘陵地、平坦地に大分され、人口の60%が平坦地にある市街地に集中）

□静岡県藤枝市(地方都市型)

モビリティが活用できる福祉専門職を増やし、外出目的の創出につながる仕掛けをトライ中。

- ・人口:140,281人（高齢化率:31.5%）（R6年4月）
- ・面積:194.06km²（静岡県のほぼ中央に位置しており、面積のほぼ半分が森林）

□千葉県松戸市(都市型)

自立支援につながるケアマネジメントの研修を通じて、福祉専門職の意識の変容を推進中。

- ・人口:501,016人（高齢化率:26.6%）（R7年8月）
- ・面積:61.33 km²（東京都に近接し、首都圏の住宅都市として発展）

4. 成果目標

□ステージゲート(2025年度までに)

- ・地域交通のリ・デザインに関する実践的成果の可視化と知識の体系化
 - 各地域の目標達成と変容の明確化
 - プロセスの記録と実践的知見の体系化
 - 調査フィールドでの事例を「モデル化」し、他地域への横展開に着手

□最終年度(2027年度の目標)

- ・モデル事例に基づく横展開が複数地域において実現し、調査フィールドと同様の社会的変容が促進されている

I. 養父市での取り組み

I-1. 養父市について

■養父市の概況

- ✓人口:20,808人(R7年3月末)
 - ・65歳以上の高齢者:8,476人
 - ・高齢化率:40.73%
- ✓世帯数:9,008世帯(R7年3月末)
 - ・高齢者世帯:5,859世帯
- ✓面積:422.78km²
 - ・面積の約75%が山林

■養父市の交通の状況（H27年）

- ✓自動車保有台数:2.14台／世帯
- ✓移動は自家用車利用が主流
- ✓自動車の交通分担率は77%
- ✓平日のバス分担率は5%(H22)



I-2. 養父市公共交通の再構築・拠点作りに向けた研究開発の目標

■ステージゲート（2025年）までに実現すること（SRL 5 を達成）

✓デマンド交通実証実験の結果を踏まえた「継続性のあるモデル構築」

- ビジネスモデル（運用母体・費用）
- システム化（利用者数や収益と見合ったシステムの検討）
- 乗り換え拠点の機能やサービス（モビリティハブの要件検討）
- 他の移動サービス（スクールバス等）との統合

✓JMARの成果の活用

- 介護・福祉部門との連携による「移動手段」+「福祉施策」の試行

■SIP終了後の出口戦略（SRL 7 以上を達成）

✓「小さな拠点」を中心とした交通再編と地域活動を支える移動手段の仕組みが構築できている

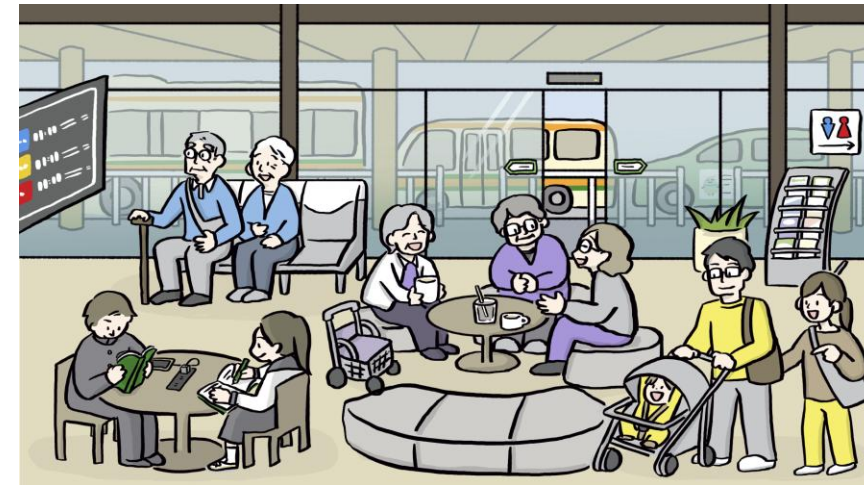
✓関宮地域での取り組みをまとめたモビリティ・リ・デザインに向けた成果・実践集を活用した普及・支援活動の一環として他地域への横展開に着手している

I-3. 養父市「小さな拠点（関宮地域に建設中）」について

- ◆ 養父市では、2020年度から地域交流拠点となる「小さな拠点」建設の検討を開始。
- ◆ 地域住民会議、地域ケア会議、**交通配送会議**等での検討を踏まえ、地域交流拠点として公民館機能を備えたコミュニティ施設を中心に、売店やレストランなどの商業施設、歯科医院や薬局、デイサービスを含む医療・福祉施設、**関宮地域の交通拠点となるバスターミナル**を集約。
- ◆ 居住者密度が低く、一人暮らし等の高齢者が多く生活している地域であることから、冬季の豪雪等による孤立の解消において**地域内2拠点生活を可能に**する短期滞在型施設も建設。
- ◆ 2027年4月から供用開始予定。



小さな拠点の完成イメージ図



小さな拠点の乗り換え・待合室のイメージ図

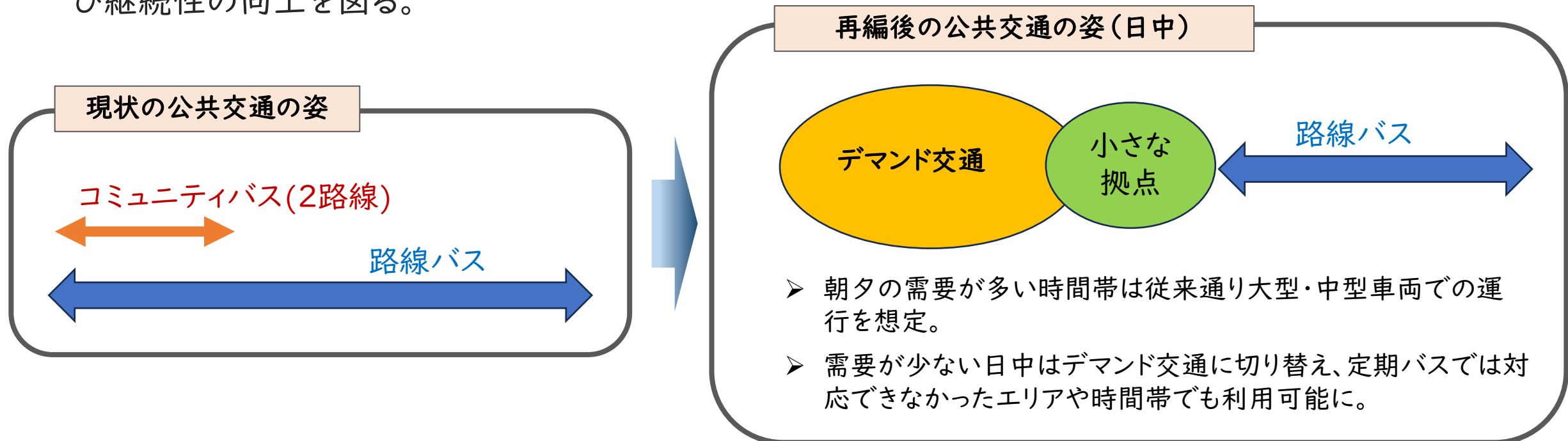
I-4. デマンド交通実証実験の概要（兵庫県養父市関宮地域）

■背景

- ✓地域の交流拠点となる「小さな拠点」を十分に機能させ、地域住民のWell-beingの向上に資するためには、「自由で利便性が高い移動手段」が求められている。

■目的

- ✓「小さな拠点」を中心とした公共交通を再編し、乗継等のハードルを下げることで、地域交通の利便性および継続性の向上を図る。



I-6. デマンド交通実証実験（兵庫県養父市関宮地域）

■デマンド交通の体験機会提供（23年10月28日～11月10日：14日間）

- ✓デマンド交通に関する周知・理解を目的とした実証運行を実施
- ✓体験機会創出のため、「お買物便」「通院便」等を設定
- ✓乗降場所を地域住民と協議した上で設定し、新しい交通体系に関して議論する機運を醸成、地域交通を「自分事化」するための足掛かりに

■住民ニーズ・コストを反映した継続性のあるモデル検討（24年10月26日～12月1日：約1カ月間）

- ✓日常の利用を想定した約1ヶ月の実証運行を実施
- ✓デマンド交通への転換の必要性や理解の促進、乗り換え拠点の機能やサービスのイメージ共有
- ✓LINEを用いた受付システムを構築し、高齢者の多い地域でのICTの活用可能性を検証
- ✓乗り換え拠点となる「小さな拠点」に求められる要素を検討

■実装を見据えたモデル構築（25年11月8日～2026年1月18日：約70日間）

- ✓日常＋冬期の運行課題等の抽出を目的に実施
- ✓実装を見据えて運行管理者の負担を減らすため（主に人件費）、予約・運行管理システムを導入
- ✓他の移動サービスとの連携：小中学生のクラブ活動対応等、スクールバスの運行効率化を視野に地域の小中学校との連携

I-9. 2025年度のデマンド交通実証実験

■運行実績

✓日程:2025年11月8日～2026年1月18日(12月30日～1月3日は運休)(全36日間)

✓車両台数:2台(全但タクシー車両4人乗り)

✓利用実績:177人(他分野との連携含む)

今年度は**他分野との連携**にも注力。

教育分野や福祉分野との新たな連携を
スタート。

✓ユニークユーザー数:40名

申込種別		
一般	一般からのデマンド申込み	96
自治協	自治協議会からの代理予約	40
教育	地域の小中学校の利用者	17
社協	社協との連携による外出支援	24
合計		<u>177</u>

■利用状況(ユーザー別)

✓自治協による代理予約がデマンド交通の利用を促進。**自治協などの中間支援団体の協力体制整備が予約行為のハードルを下げ、利用を促進**する要因となることが判明。



I-9. 2025年度のデマンド交通実証実験

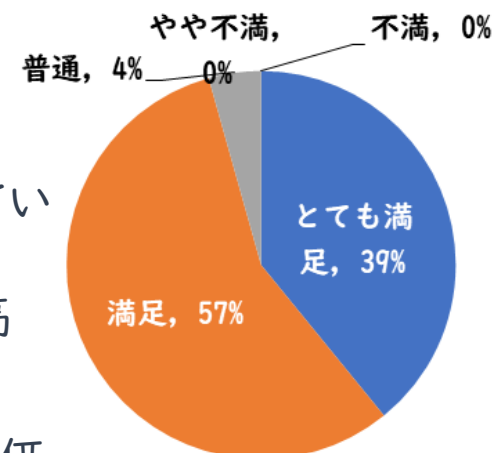
■デマンド交通の満足度

✓ 総合的な満足度は、「満足」が57%、「とても満足」が39%。両者を合わせた**満足以上の評価は96%**に達している。

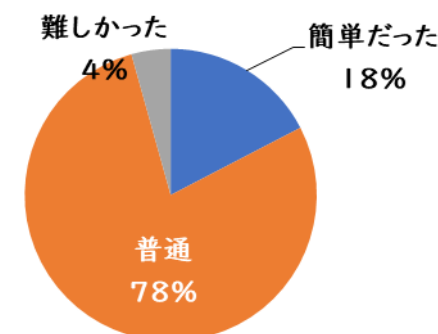
➡実際にデマンド交通を利用した利用者から、非常に高い満足度が得られている

✓ 予約方法や乗降場所についても大多数から前向きな評価

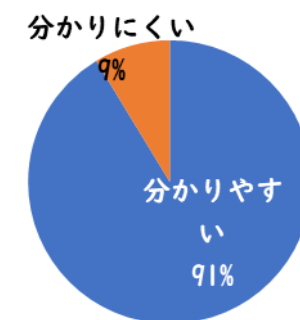
➡地域の**高齢者を含む利用者層に対して一定の分かりやすさと受容性**を有していると評価



総合的な満足度



予約方法

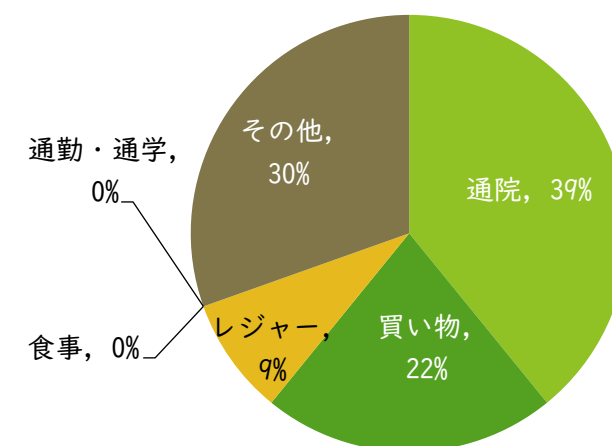


乗降場所の分かり易さ

■デマンド交通の利用目的

✓ 通院(39%)、買い物(22%)を占めることから、当該デマンド交通は、生活を支える移動の役割への期待が大きいことを示唆

✓ レジャー(9%)を占めていることは、デマンド交通が「用務交通」ととどまらず、余暇・交流・気晴らしといった生活の質(QOL)に関わる移動も一定規模で支えていることを示している



I-9. 2025年度のデマンド交通実証実験

■来年度以降の実装を踏まえた検討課題（整理）

✓利用料金体系の妥当性

- ・実利用者の満足度を踏まえ、サービス水準と利用者負担との均衡を検討

✓車両台数・輸送力の最適化

- ・時間帯別・曜日別の需要特性に応じた効率的な運行体制の構築

✓ミーティングポイント（乗降場所）の再整理

- ・安全性・分かり易さを重視した乗降場所配置の見直し（特に冬期期間）

✓冬季運行における安全性および確実性の確保

- ・積雪・凍結等を考慮した運行ルールおよび代替対応の整理

✓路線バス・コミュニティバスとの再編

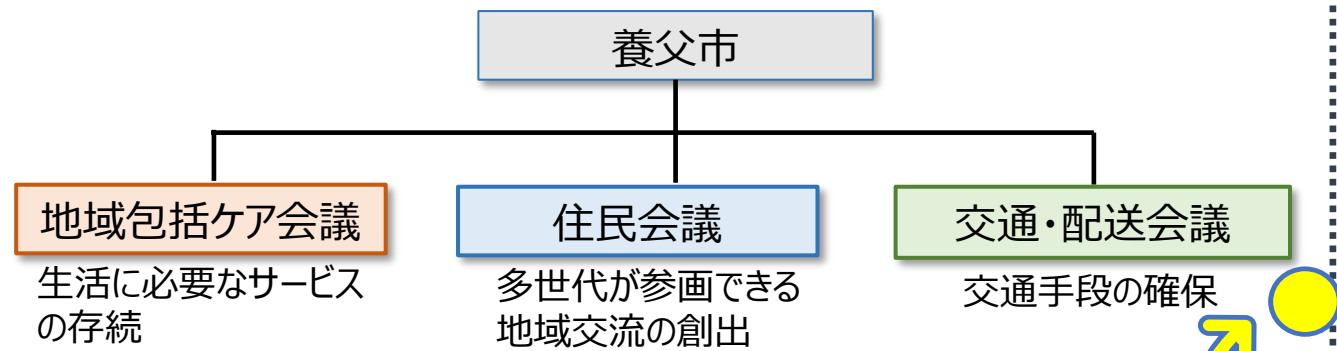
- ・役割分担と乗継を意識した交通体系全体の再設計

✓小中学校の通学利用の可能性検証

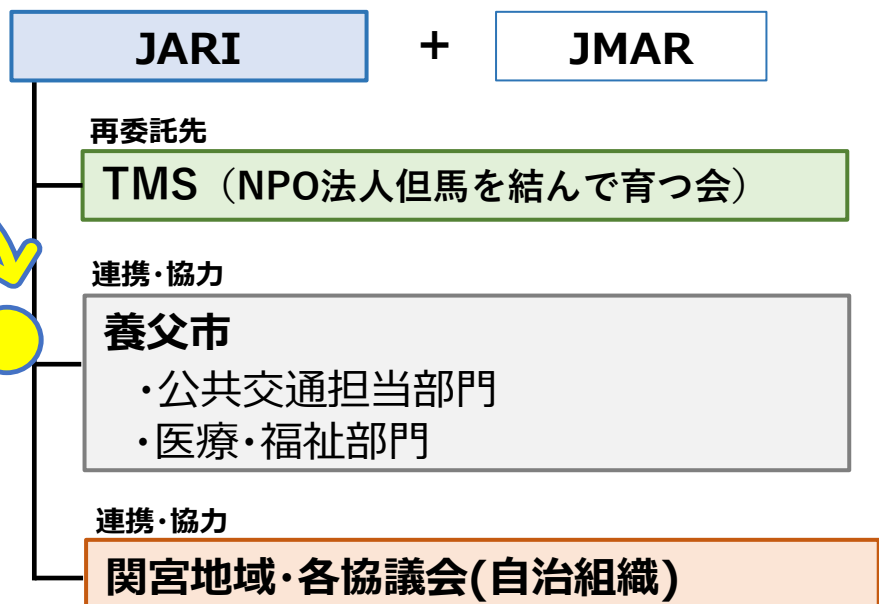
- ・安全性・運行時間帯を前提とした多目的利用の検討

I-5. 養父市関宮地域の公共交通再構築に向けた検討体制

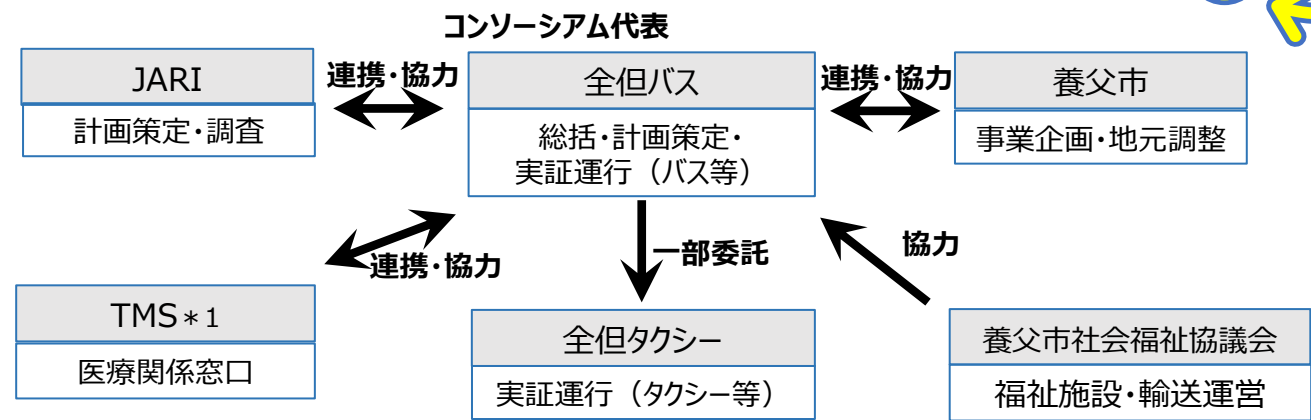
◆ 養父市「小さな拠点」検討体制



◆ SIP「移動手段の手当てが地域作り・活動に与える福祉的効果の検証」



◆ 「共創プラットフォーム」検討体制



※1 TMS：NPO法人但馬を結んで育つ会

I-9. 養父市介護福祉部門との連携

- ❖ JARI・JMARがSIP事業推進のなかで得た知見を、養父市の福祉部門と連携した活用を開始。
- ❖ この取り組みを通じて移動による効果の可視化に向けた検討を前倒しで実施予定。

➤ JARIは、養父市、仁淀川町で交通を軸にした地域交通の再構築に向けた取り組みを推進中。

➤ JMARは福祉専門職と協力して、お出かけによるフレイルからの脱却を目指した取り組みを推進中

「移動手段の手当て」×「外出目的の創出」

《地域のニーズを踏まえたモビリティの実現》

- ◎ 地域交通の再構築・継続可能な運用体制

《移動のための目的地・居場所作り》

- ◎ 小さな拠点の構築・機能の集約
- ◎ 地域活動等の継続的な仕組みの構築

《SC・ケアマネ等の専門職、市町村職員の研修》

- ◎ ニーズ把握、担い手発掘、地域課題の共有化
(地域ケア会議等の活用)
- ◎ 生活支援コーディネーターによる生きがいや役割の創出、マッチング機能強化
- ◎ 自立支援型ケアプランの作成

- ・福祉施策効果の可視化（健康アウトカムの維持向上＋介護給付費の抑制）
- ・モビリティの確保が与える効果の定量的・定性的手法の確立

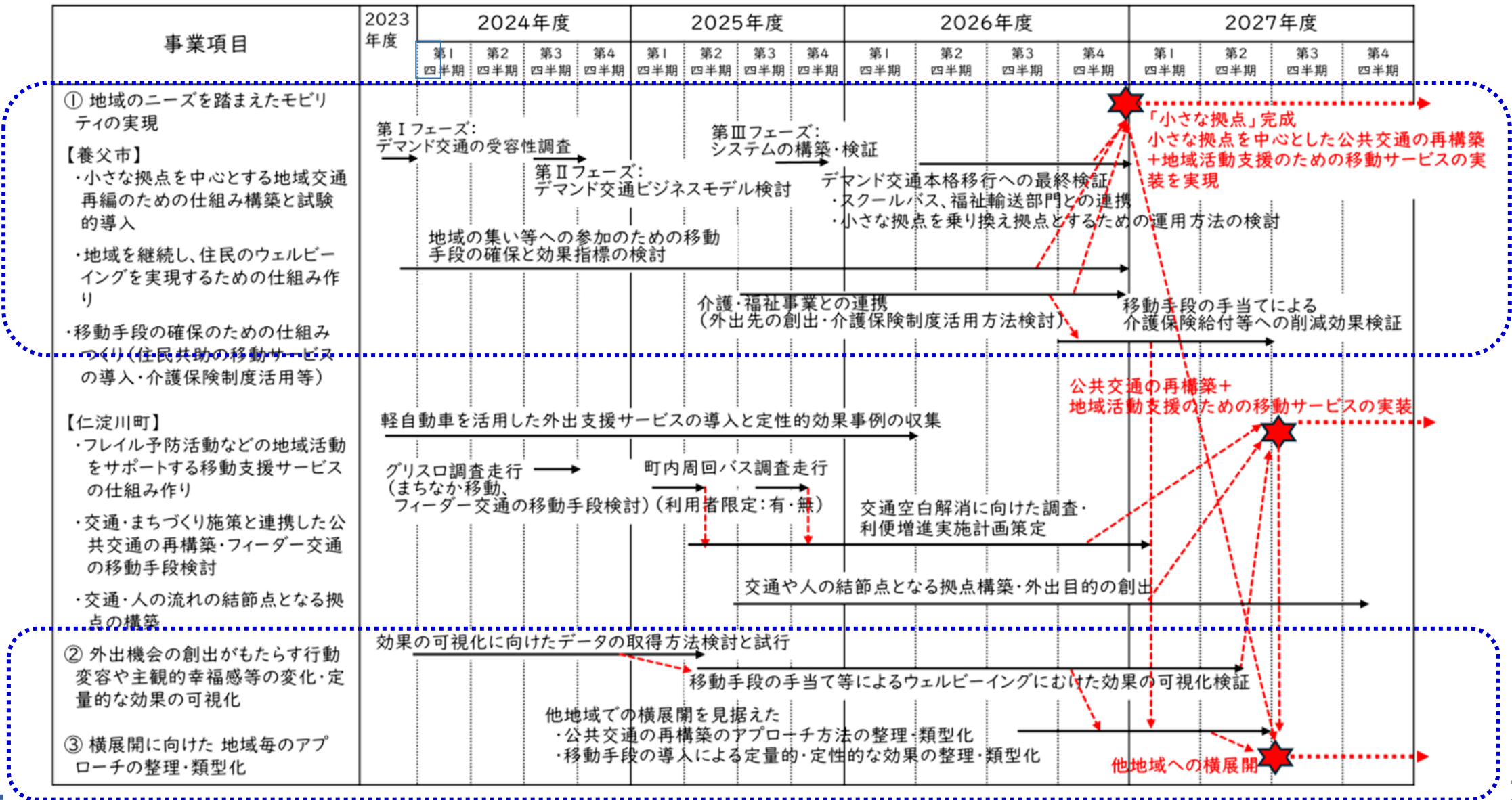
I-9. 養父市介護福祉部門との連携

- 要支援・事業対象高齢者を対象に、
自立支援型ケアプランに基づく外出支援を実施（2025年12月～2026年3月）
 - ✓ 対象者数は少数ではあったが、継続的な外出支援により対象者以外の参加も誘発し、外出参加人数は想定を上回った。
 - ✓ 外出経験の蓄積により、当初は消極的であった対象者から外出先の希望が自発的に表出するようになった
 - ✓ 社会的効果:対象者が周囲の友人に参加を呼びかけるなど、外出支援が地域内の人的つながりを拡張する効果が確認された
- 運用上の知見
 - ✓ 交通手段が多様である場合、高齢者にとっては理解しにくく、車両・乗車場所を統一した運行が有効であった
- 制約条件
 - ✓ 冬期の降雪等により外出中止事例が発生し、積雪地域では季節要因を考慮した柔軟な運用が必要である

I-10. 養父市での取り組みの位置づけ・スケジュール

養父市での取り組み

効果の可視化・横展開



II. 仁淀川町での取り組み

II-1. 仁淀川町について

■仁淀川町の概況

- ✓人口:4,357人(令和7年7月)
- ✓65歳以上の高齢者:2,453人
- ✓高齢化率:56.30%
- ✓世帯数:2,567世帯(令和7年7月)
- ✓面積:333km²(面積の約90%が森林)



■仁淀川町の交通の状況（R5年度）

- ✓運行頻度が、週に1日、もしくは1日一往復だけが殆ど。
- ✓利用者一人あたりの公的資金投入状況(R5年度)
 - ・町民バス :5,755円(利用者数4,068人／年)
 - ・コミュニティバス :4,683円(利用者数4,704人／年)
 - ・スクールバス :6,336円(利用者数12,298人／年)



II-2.地域活動を支える移動・拠点作りに向けた研究開発のアウトプット・目標

■ステージゲート（2025年）までに実現すること（SRL5を達成）

✓地域を支える移動の仕組み作り

- ・フレイル予防活動と連携した住民共助の移動サービスの実装と効果評価手法の妥当性検証
- ・公共交通の再編に向けた取り組みの推進・提案活動（交通計画と連携）

✓持続可能なまちづくりに向けた提案

- ・「交通の結節点」と「包括ケアシステム」の視点を組み込んだ3拠点構想の提案

■SIP終了後の出口戦略（SRL7以上を達成）

✓交通再編と地域活動を支える移動手段の仕組みが構築できている

✓まちづくりや包括ケアシステムと連携した「拠点」の事例実現とその効果の発信

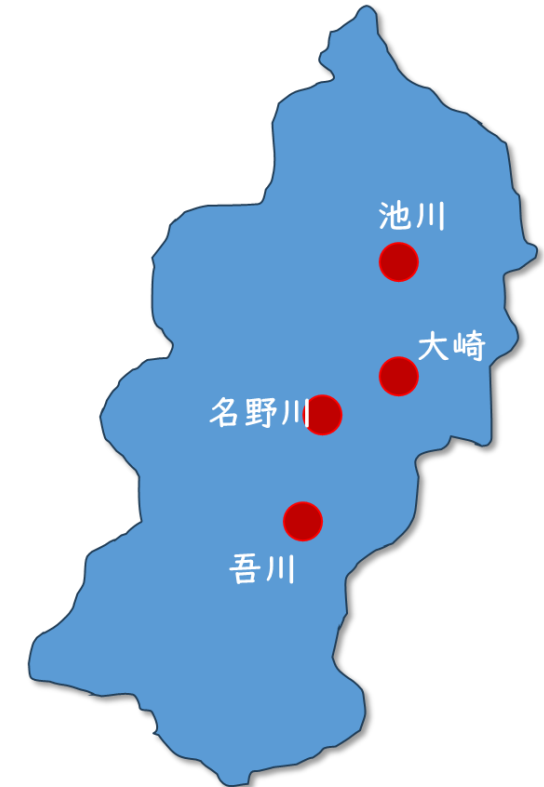
II-6. 仁淀川町「くるりんバス（町内巡回バス）」調査走行の概要

■「くるりんバス」調査走行の目的

- ✓単なる移動手段ではなく「**行きたくなる目的地**」を支える移動手段として「くるりんバス」を発案
- ✓高齢者のフレイル予防（お出かけを諦めない社会参加）、外出意欲の向上、新たな交流・行動変容の促進
- ✓地域交通を「人が動く目的そのもの」として再定義

■調査走行の概要（春と冬の2回実施）

- ✓運行エリア：吾川地域（大崎・名野川）、池川地域（土居）、仁淀地域（森）
- ✓運行期間：（春）令和7年5月9日～6月29日（51日間）
（冬）令和8年1月14日～2月12日（30日間）
- ✓運行時間：（春）平日：8:30～14:00（45分間隔）、
水曜夜：16:30～20:15（30分～1時間間隔）
土日：8:30～14:00（45分間隔）
（冬）10:00～14:30
- ✓運賃：無料
- ✓対象者：（春）NPOフレイルサポーター仁淀川サポーター限定
（冬）だれでも利用可能



■運行ルート・エリア

- ✓吾川地域（大崎役場）、池川地域（池川439:交流拠点施設）、仁淀地域（仁淀支所）を45分で巡回

II-6. 仁淀川町「くるりんバス（春）」調査走行の概要

■運行形態

✓くるりんバス単独の利用以外に、くるりんバス→タクシー→目的地など、他の移動手段への乗継についても実施。

■目的地例

✓カフェ、地域スーパー、百貨店、景勝地、ハツラッツなど

■夜くるりんバス（公共交通機関がない夜間のお出かけ需要創出）

✓毎週火曜・金曜に町内の居酒屋を巡回

✓タクシー会社前で降車し、自宅までの無料タクシー連携あり

■運行実績

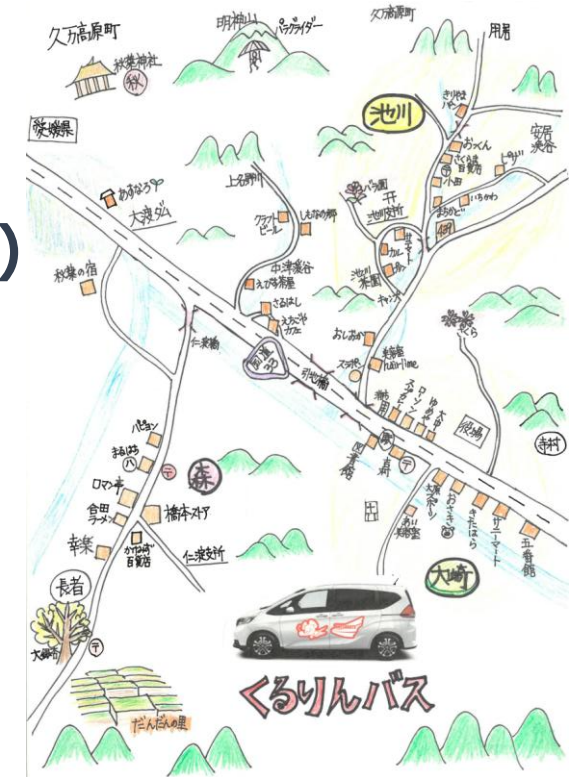
✓運行回数:168回

✓総利用回数:71名468回(11.4回/日)

■くるりんバスの利用目的

✓月曜日・木曜日はハツラッツへの参加やドライブでの利用が多く、全体の約46%

✓それ以外の曜日については、食事やお買物、観光など具体的なお出かけ先を想定した移動が多い傾向



II-6. 仁淀川町「くるりんバス（冬）」調査走行の概要

■運行形態

✓くるりんバス単独の利用以外に、くるりんバス→タクシー→目的地など、他の移動手段への乗継についても実施。

■目的地例

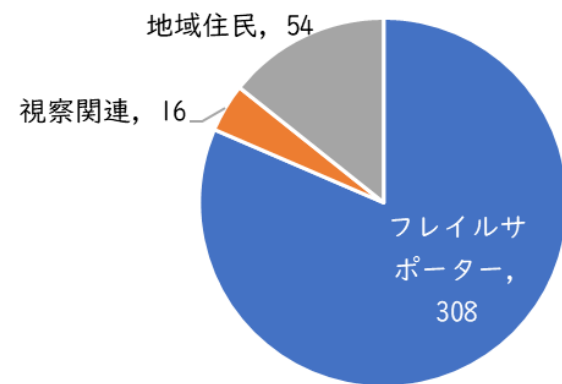
✓カフェ、地域スーパー、百貨店、景勝地、ハツラッツなど

■利用者の内訳

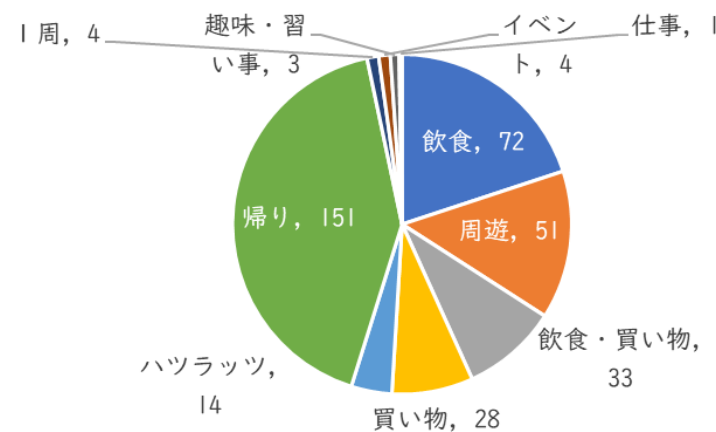
✓延べ利用者:378人

(申し込み人数:386人中キャンセル9人、キャンセル率2.3%)

✓主な外出先:消費・滞在志向(飲食・買い物)と余暇志向(周遊)の外出が大勢



利用者の内訳



外出先の内訳

くるりん(循環)で
おでかけしませんか
(調査走行)

運賃
無料

乗車定員
3-6名
(普通車使用)

吾川地区、仁淀地区、池川地区
3地区を回る「くるりん(循環)」の調査走行を実施します

くるりんの走行ルート(赤・青)
(調査走行のため2台の車両は普通車です)

【乗降場所】
○仁淀川町役場本庁舎玄関前
○仁淀川町役場本庁舎玄関前
○池川ふれあい公園(439交流館)
○【要予約】
名野川(さるし前)・田村運動広場前

□ 運行期間 2026年1月14日(水)~2月12日(木)
□ 運行時間 10:00~14:30
□ 乗車定員 3~6名(使用する車によって変わります。)
□ 予約 予約をしなくても席が空いていれば乗れますが、予約をすれば確実です。
【予約方法】3日前までに企画振興課(☎35-1082)へご連絡ください。
★月・木曜日(祝日は除く)は予約により以下の便を運行します。
○仁淀川町役場(大崎行き) 8:35発
○439交流館(大崎行き) 8:40発
○仁淀川町役場(439交流館行き・仁淀川町役場行き) 16:10発

◆ 共催 NPO法人フレイルサポート仁淀川
仁淀川町企画振興課(☎35-1082)

II-6. 仁淀川町「くるりんバス（冬）」調査走行の概要

■タクシーを用いたデマンド運行

調査走行のデータ入手次第分析予定

用居地域・大西地域・大野地区・百川内地区を対象にデマンド乗合タクシーの調査走行を実施します。

今回、調査走行をするデマンド乗合タクシー「池川くるりん」は、事前(2日前まで)にタクシー会社(池川交通ハイヤー)へ電話で予約して、何人かのお客さんと乗り合いて、池川ふれあい公園(439交流館)とお住まいの地区を結びます。

この調査走行は、運転免許を返納しても、これまでのように買い物など日常の暮らしを無理なく継続できるのか、また、こうした取組によって楽しいお出かけが増える可能性があるかを調査し、検証するものです。ぜひ、今、運転なさっている方も、そうでない方も、デマンド乗合タクシー(池川くるりん)と「グリスロ」や「くるりん」を乗り継いでお出かけすることを、この機会に体験し、様々なご意見をお聞かせください。

□ 運行期間 2026年1月14日(水)～2月12日(木)
□ 運行時間 10:00～14:30 (※月:木は8:00～17:00)
□ 対象地区 用居地域・大西地域・大野地区・百川内地区
□ 利用条件 同期間運行する「くるりん」または「グリスロ」乗り継いで町内のお店で食事や買い物をする。○対象地区 → 池川ふれあい公園(439交流館) ○池川ふれあい公園(439交流館) → 対象地区
□ 乗降場所 コミュニティバスの路線上であればどこでも乗れます。
※池川ふれあい公園(439交流館)で「くるりん」、「グリスロ」に乗り継ぎます。
□ 運賃 無料
□ 予約方法(電話) 池川交通ハイヤー
受付時間 8:30～17:00 (予約は2日前まで) ☎ 34-2450
※予約の際は「池川くるりん」の予約だとお話しください。

◎ 共催 NPO法人フレイルサポート仁淀川・仁淀川町社会福祉協議会
□ 問い合わせ 仁淀川町社会福祉協議会 ☎ 35-1082

※本調査走行は令和7年度「フレイルサポート仁淀川」(NPO法人フレイルサポート仁淀川)の事業の一環として実施します。

■グリーンスローモビリティの運行

調査走行のデータ入手次第分析予定

運賃 無料

グリスロで おでかけしませんか (調査走行)

池川の町を「グリーン」で (電動で環境にやさしい)

「スロー」な グリスロが走ります! (時速20km未満でゆっくり) (グリーンスローモビリティの路線)

グリスロの走行ルート(緑線)

★どこでも乗り降りできます
★どなたでも無料で利用できます
★7人乗り(乗員2名+乗客5名)

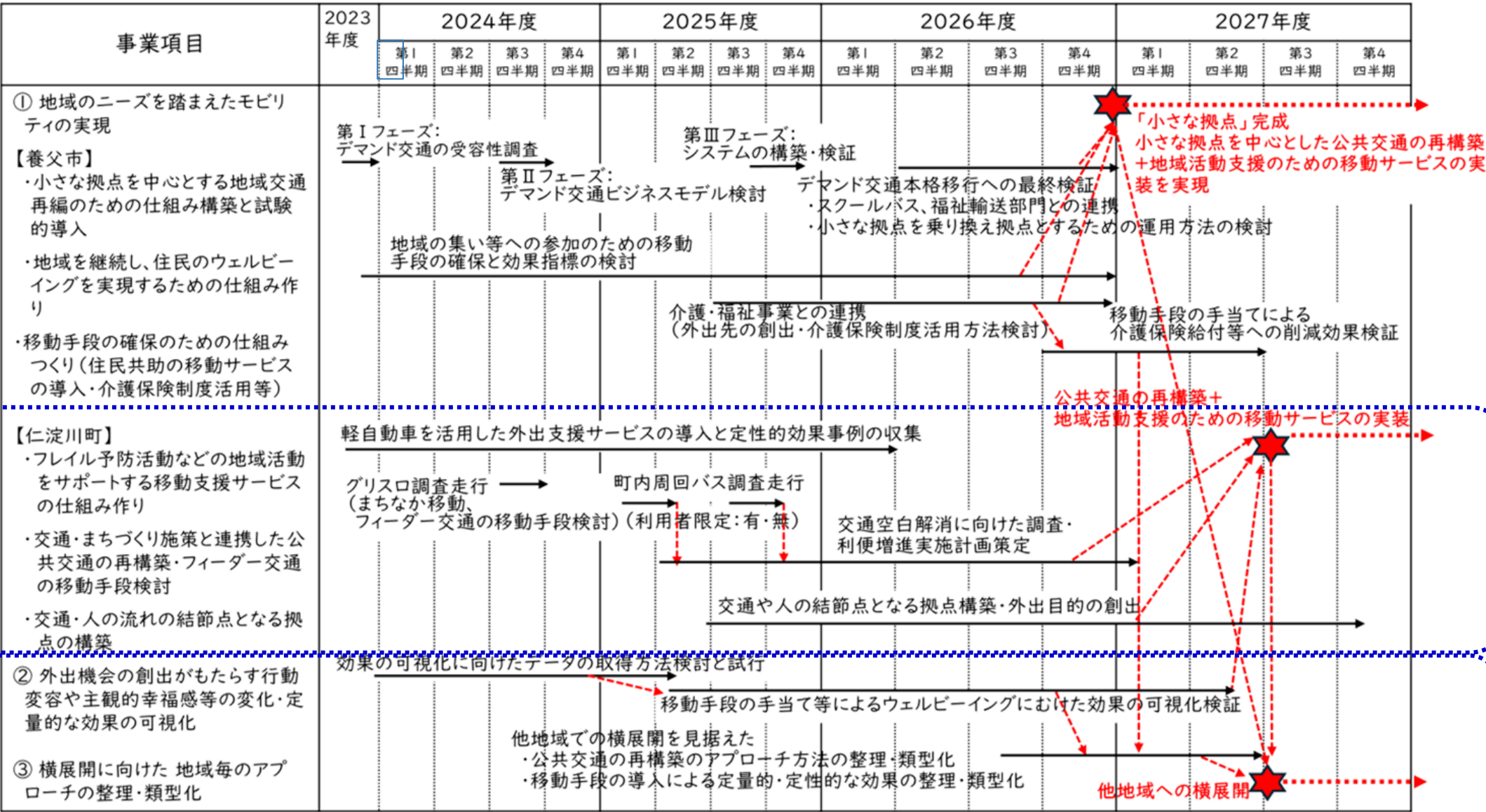
□ 運行期間: 2026年1月14日(水)～2月12日(木)
□ 運行時間: 10:00～14:30 (約30分間隔で運行予定)
(※12:00～12:30充電のため休航)
※悪天候や路面凍結等により運行できない場合があります。

◎ 共催 NPO法人フレイルサポート仁淀川・仁淀川町社会福祉協議会 (電話 35-1082)

※本調査走行は令和7年度「フレイルサポート仁淀川」(NPO法人フレイルサポート仁淀川)の事業の一環として実施します。

※ 乗員 2名 乗客 5名

II-7. 仁淀川町での取り組みの位置づけ・スケジュール

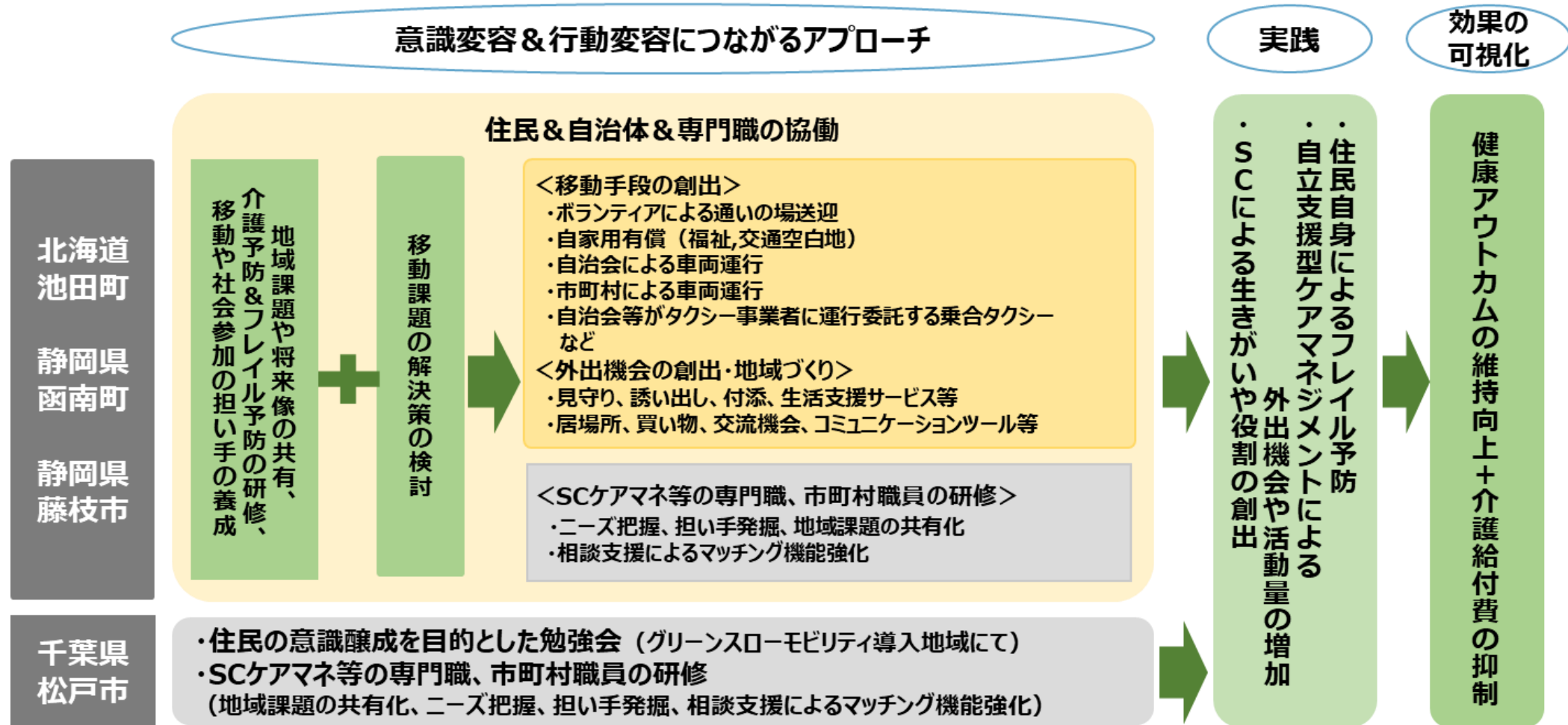


仁淀川町
での取り組み

効果の
可視化
・横展開

III.北海道池田町、静岡県函南町、 藤枝市、千葉県松戸市での取り組み (JMAR)

○ 地域のニーズに寄り添ったモビリティの導入は、技術開発だけでは実装できない、または実装しても定着に至らない。社会的受容性を高めることが不可欠だが、そのためには、**住民や自治体職員など地域の関係者の意識や行動の変容が必要**。

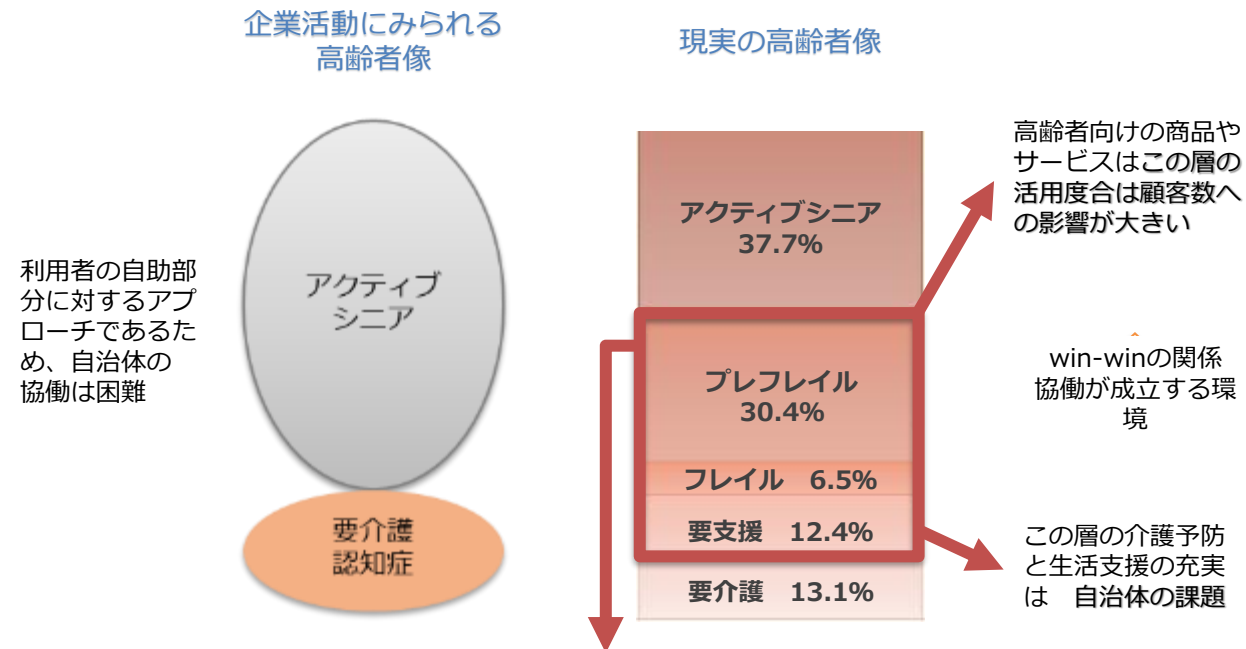


SC=生活支援コーディネーター

○ プレフレイル～フレイル状態の要支援高齢者を中心に、環境要因により移動制約のある元気高齢者も含めて社会実装。

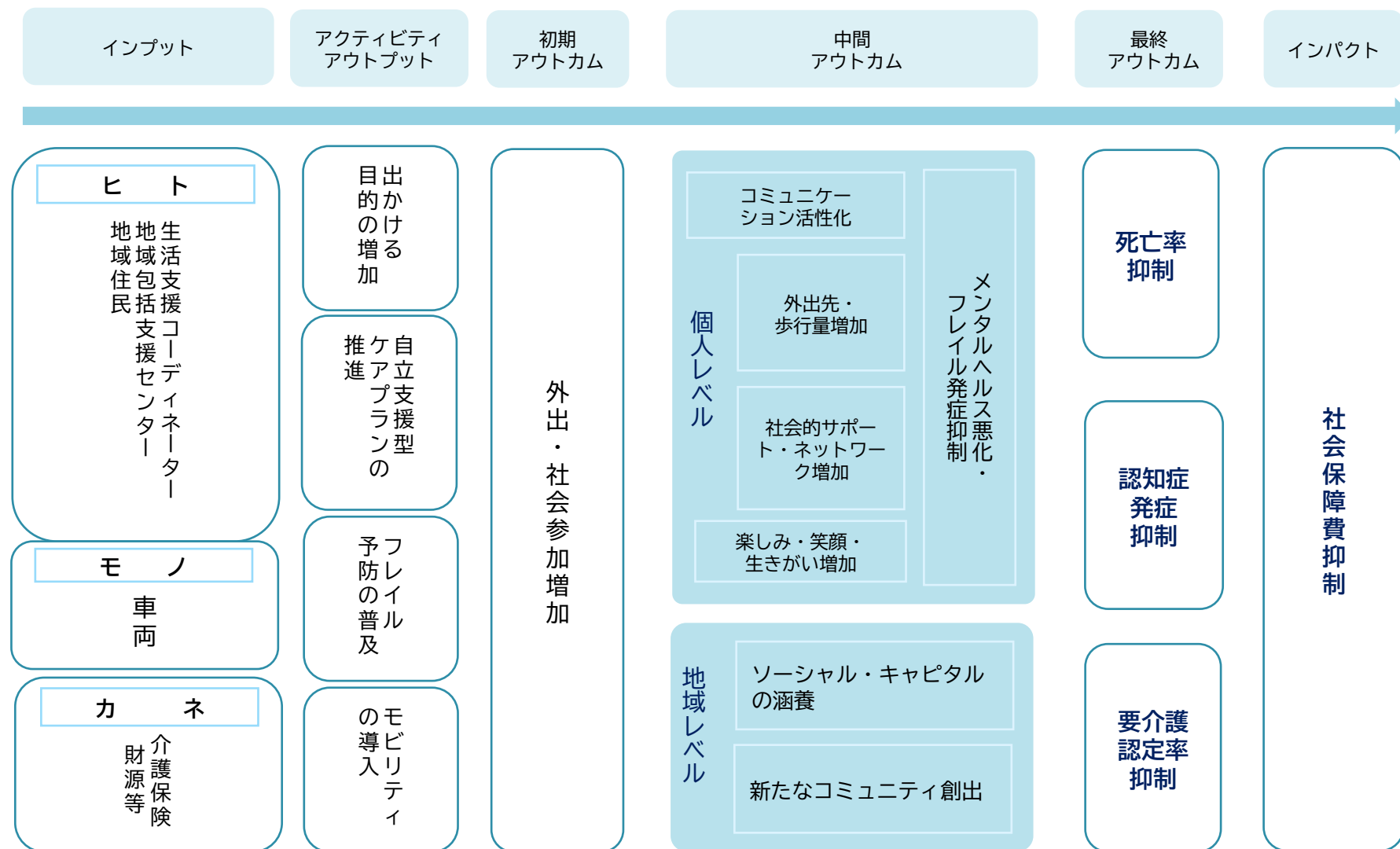
	マイカーで自由に移動ができる 元気高齢者	家族送迎を含むマイカーを 利用できない元気高齢者	プレフレイル状態の 要支援高齢者	要支援高齢者
移動手段	当面は問題ないが、加齢により交通事故リスクが高まっていくので、代替手段が必要	マイカーと同様の自らの意思で自由に外出できる移動手段（公共交通、住民主体の移動支援）を確保することが必要	マイカーと同様の自らの意思で自由に外出できる移動手段（公共交通、住民主体の移動支援）を確保することが必要	ヘルパーに買い物を頼んだり、移動の足がないという理由でデイサービスを利用するのではなく、その財源も活用し、マイカーと同様の自らの意思で自由に外出できる移動手段（公共交通、住民主体の移動支援）を確保することが必要
社会実装	移動手段はあるので、移動の目的（社会参加の機会）を用意していくことが重要	家に閉じこもりがちにならないように、外出の意欲を増すような目的を作ることが重要	通院や買い物などの必須の外出に加えて、プレフレイルの高齢者でも参加可能な移動の目的をつくり、週に数回外出ができ、家に閉じこもらないことが重要	通院や買い物などの必須の外出に加えて、フレイル、要支援者でも参加可能な移動の目的をつくり、週に数回外出ができ、家に閉じこもらないことが重要

○ 高齢者のうち、プレフレイル、フレイル、要支援者は実に約半数にのぼり、このマーケットは非常に大きい。介護や医療、保健といった行政分野では、人口減や社会保障費増という厳しい状況の中、フレイル等の高齢者の介護予防が極めて大きな課題となっており、一方で、地域の民間企業等もシュリンクするマーケットにおいて厳しいビジネスを強いられている。新たな移動手段の確保とそれらを有効活用するための社会実装は、両者に対してWIN-WINが成立する環境を作り出すことが期待される。

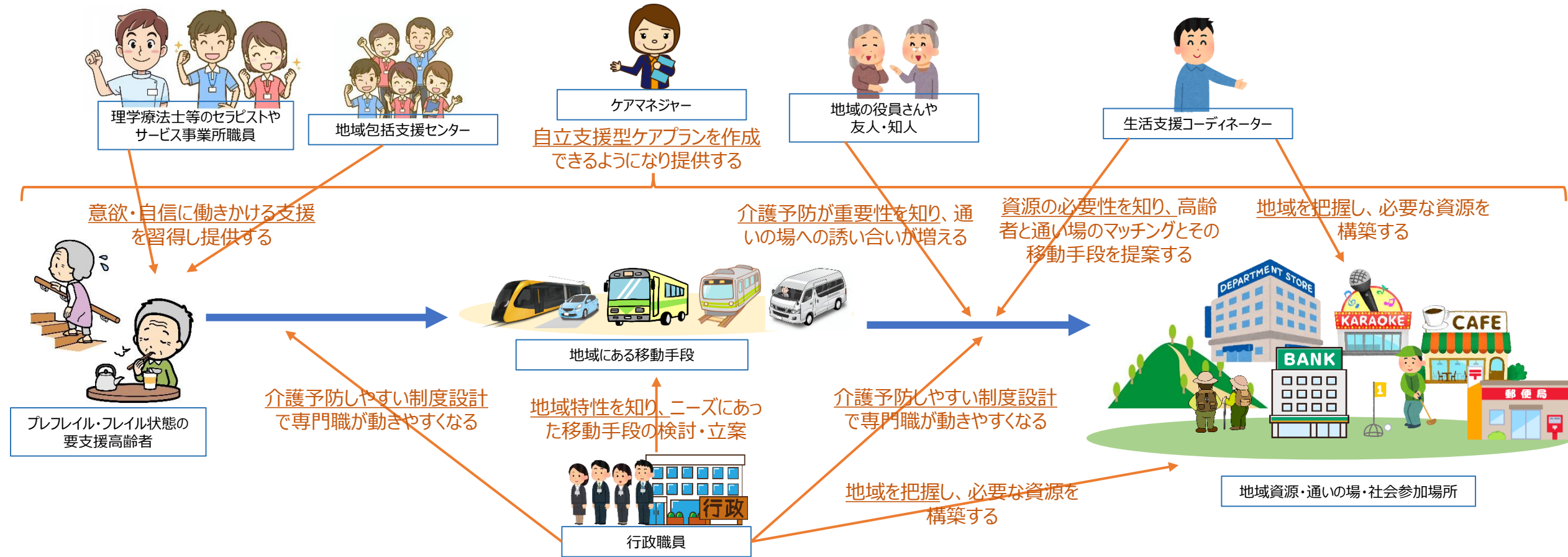


「フレイル高齢者が出かけたくなるまち」
「フレイル高齢者が安心して買い物に行けるまち」
「フレイル高齢者が社会参加できるまち」

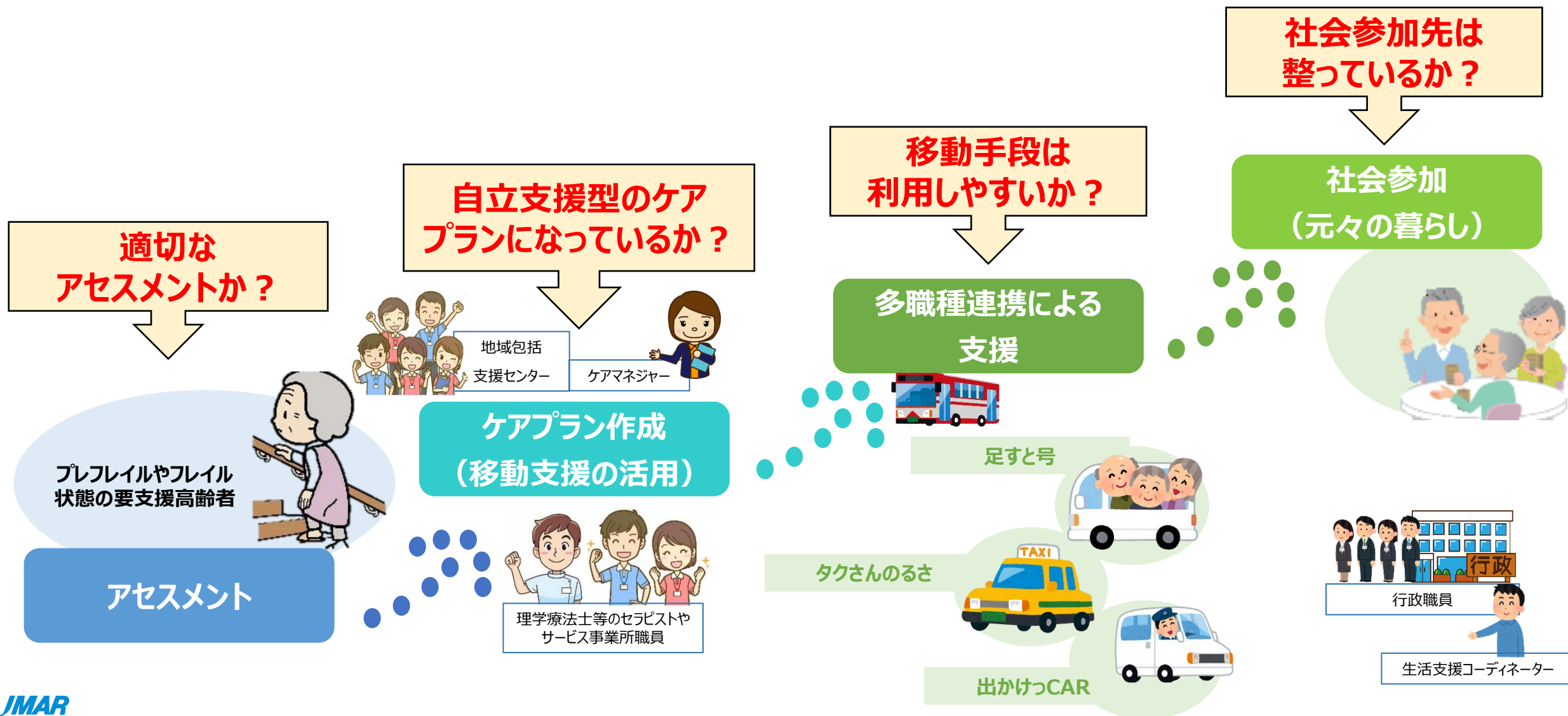
○ 外出・社会参加の増加が社会保障費を抑制する先行研究を踏まえ、地域住民やプレフレイル～フレイル状態の要支援高齢者等への普及啓発、地域包括支援センター等への研修、介護保険財源等の活用によるモビリティの導入や出かける目的の増加等を行います。



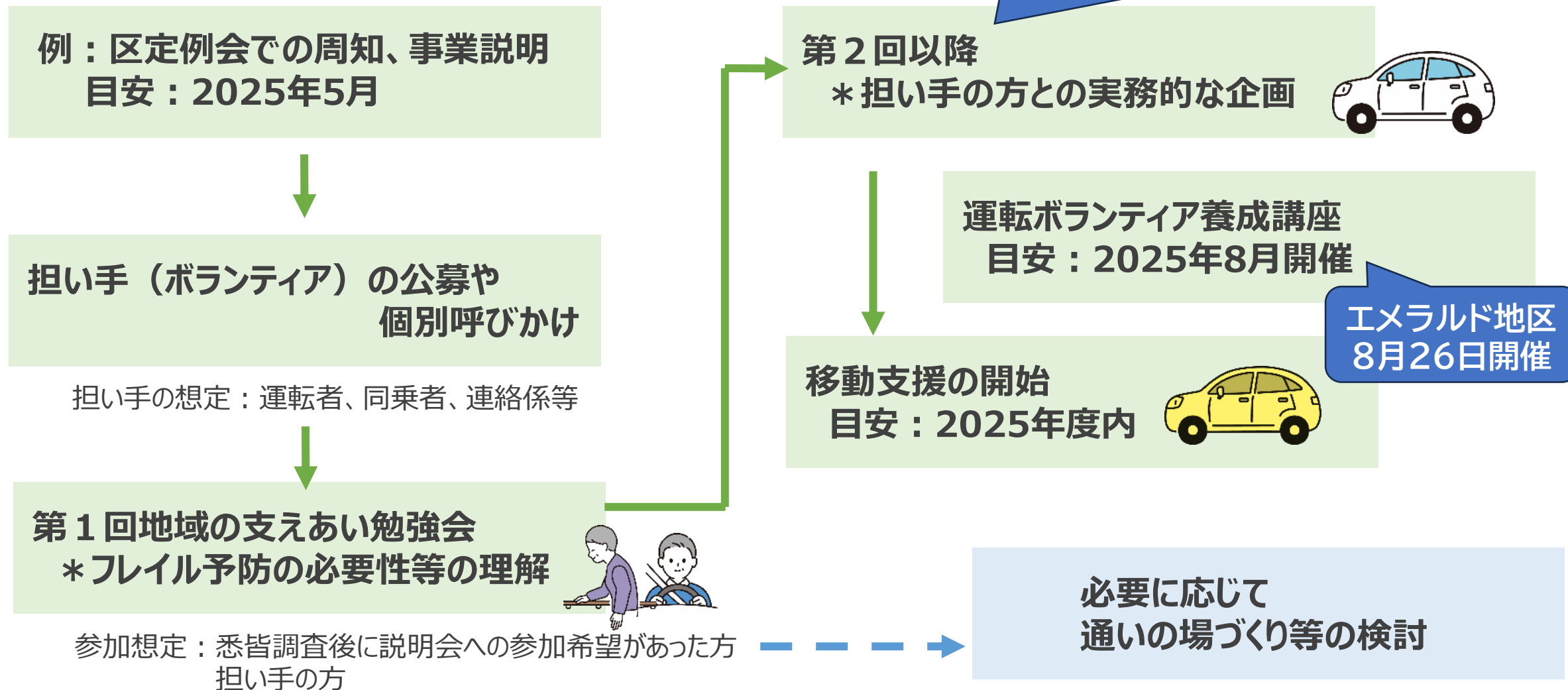
○ プレフレイル・フレイル状態の要支援高齢者に対するこれまでの支援は、ヘルパーによる買い物支援や送迎付デイサービスでの入浴、食事支援等でした。多面的な介入を行う事業モデルを構築し、要支援高齢者本人や市町村行政、専門職等の社会的受容性を高め、効果評価により横展開を図ります。



○ケースごとに評価をすることで、迅速（アジャイルに）PDCAを回しています。アジャイルな評価により、多職種の支援方法を継続的に改善するとともに、政策的な対応が必要な場合には具体的対応を検討します。



■ 支え手の活動まで



介入地域

■パサディナ区

名称 パサディナ区福祉自動車「パサディナ号」
調査対象者の受け入れは可能

■城山区

名称 城山スマイル号に決定 (新規)
3月12日 (木) 自主的にプレ運行予定

■エメラルド区

ボランティア養成講座の実施 2026年8月26日 (11人修了)
名称 未定

対照地域

■宝蔵台区

本事業を契機に居場所の立ち上げへ
名称 サロンdeイキイキ
内容 月1回・自治会館にて交流等

■ヒューマンヒルズ区

定期的な住民勉強会を開催
4月にはお試し交流の場としてお花見を実施予定



城山移動支援 チームの検討状況

全体会／検討部会

■ 全体会

2025年

7月13日（研究概要の周知）

8月10日（全体の方針協議）

12月22日（名称決定）

城山スマイル号



城山移動支援 チームの検討状況

全体会／検討部会

■ 検討部会

2025年

8月22日@カフェ城山

9月12日@カフェ城山

10月2日@自治会館

2月27日@カフェ城山



補助名	登米花子	確認チェック表	○×
運行前確認	運転免許所持の確認 アルコールチェック表		□□
車両の点検	車体状態(傾き、汚れ、油漏れ、木漏れ、異音、異臭)、エンジンオイル、水、点灯(前照灯、方向指示器、ハザード)、ハンドルのガタ、ブレーキの利き具合(フット、パーキング)、アクセル踏みしろ、タイヤ回り(亀裂、損傷)		□□
利用者の確認	利用者の把握、挨拶(全員声掛け)、持ち物(バック、メガネ、杖、傘) シートベルトの着用		□□
運行行先表	目的地の確認(病院、スーパー、役場、銀行、郵便局、他)		□□
運行上の注意			□□
目的地	利用者の安全確保		□□
帰路前確認			□□

城山区移動支援

城山スマイル号

自主プレ運行

■ 2026年 3月12日

■ 参加者 7名

被験者 1名

自治会内のお仲間 3名

住民ボランティア 3名（運転・付添）

■ 目的 お買い物

★プレ運行での発見

集合場所の自治会館へ同じタイミングで
ゴミ収集車が立ち寄ることを把握できた！
＝集合場所での車両の位置を変更



自立支援型地域ケア会議 市内全包括が開催

- ・グリーンヒルズ藤枝:4回実施。(令和6年度～)
- ・開寿園:3回実施(令和7年7月から開始)
- ・ふじトピア:10回実施(令和6年度～)
- ・社会福祉協議会:7回実施(令和6年度～)
- ・第2開寿園(第2開寿園高洲):6回実施(令和6年度～)
- ・亀寿の郷:12回実施(令和6年度～)



地域活動の動き

(稲葉地区)

■わくわくランドいなば

- ・昨年度から活動継続中
- ・活動参加のための移動支援も展開中

■わくわくランド谷稲葉

- ・5月から活動開始

■わくわくランド助宗

- ・8月から活動開始



(西益津地区)

■いきいきランド西益津

- ・昨年度から活動継続中
- ・活動参加のための移動支援も展開中



介護予防勉強会の開催

- ・チェックリストによるフレイルチェックで各自の状況を確認
- ・介護予防に必要なことなどを学んだ
- ・移動が難しい人には送迎を実施

内容: ①介護予防に関する講話 ②基本チェックリスト、ロコモチェック ③グループワーク



(稲葉地区)

(稲葉地区)

日時: R7.6.25 14時～16時
会場: 稲葉地区交流センター
参加者: 39名(男16/女23)

(西益津地区)

日時: R7.7.10 14時～16時
会場: 西益津地区交流センター
参加者: 51名(男12/女39)



(西益津地区)

介護活動発表会の開催

- ・チェックリストによるフレイルチェックで各自の状況を確認
- ・介護予防に必要なことなどを学んだ
- ・移動が難しい人には送迎を実施

内容: ①介護予防勉強会の振り返り ②運動器の機能向上に関する講話
③基本チェックリスト、ロコモチェック、握力計測 **④活動の発表** ⑤グループワーク



(稲葉地区)

(稲葉地区)

日時: R8.1.28 14時～16時
会場: 稲葉地区交流センター
参加者: 35名(男7/女28)



(西益津地区)

日時: R8.1.27 14時～16時
会場: 西益津地区交流センター
参加者: 51名(男12/女39)



(西益津地区)



SIP現地調査視察

- ・令和6年12月から開始したフレイル高齢者に対する介入について、プロセス(対象者抽出、アセスメント、支援方針決定等)の実際の様子を、PD・内閣府職員等関係者による確認
- ・フレイル高齢者等の生活機能の維持・向上を目的とした移動支援の活用実態を確認し、地域の交通と介護予防の連携による支援モデルの可能性について確認
- ・通いの場や民間施設等における住民主体の活動等の地域資源を活用したフレイル予防の取り組みを視察し、地域資源の活用可能性を確認

■R7.12.6（土）9時～15時30分

■西益津地区交流センター及びスーパー田子重清里店



アンケート調査の進捗

（R8.1月末時点、令和6年度実施分からの通算）

1回目アンケート(R6.12～)

介入	稲葉	26件	西益津	61件
対照	青島	13件	岡部	25件

2回目アンケート

介入	稲葉	16件	西益津	33件
対照	青島	0件	岡部	3件

■ 2025年10月～ 対象者調査組入れ開始

＜組み入れ状況の推移＞

	合計
令和8年 3月9日時点	16件

- ・ 社会福祉協議会が中心となり、通いの場に参加しているフレイルリスクがある高齢者に専門職が積極的に声掛けをし、介護予防ケアマネジメントにつなぎ心身状態の悪化を防ぐ仕掛けを実施。 **(アウトリーチ)**
- ・ 雪などの天候により活動量が低下しないように、積極的にモビリティを活用したケアプランを作成し、季節による活動量の変動を防ぐようにしている。 **(ケアマネジメントB)**
- ・ 介護予防手帳を採用し、自身で書き込むことで、セルフマネジメントを推進している。 **(介護予防手帳によるセルフマネジメントの推進)**

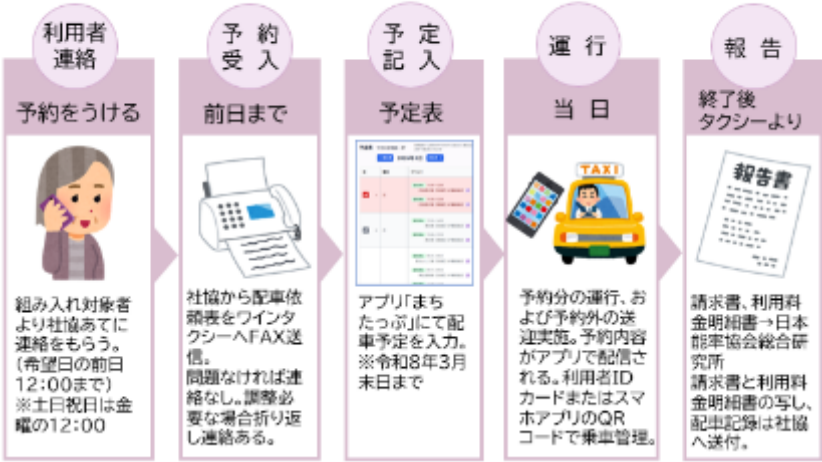
ここに強く働きかける



地域の人と資源がつながり地域共生社会の実現や地域の活性化

(JMAR実施分) Ⅲ-9. 被験者の社会参加と移動手段の活用イメージ (池田町)

配車のながれ



地元企業のウィンタタクシーと協働でモビリティを展開

モビリティを活用することで、
高齢者自身が適切に活動を選択できる



ケアマネジャーがフレイル予防を支援

池田町 地域の通いの場 (一部紹介)



のど筋サロン (スポーツボイス)



ふれあい昼食会

ROCOCO 2号店 (マックスバリュ2階)



ダンス



ボッチャ

<被験者がモビリティを活用して外出した行先> (帰宅は除く・のべ回数)

行先	マックスバリュ	病院	社協	福祉センター	郵便局	駅	図書館	知人宅	美容院	コミセン	保健センター	その他
回数	21	15	5	2	2	2	2	2	1	1	1	1

■ 行先や移動手段が増える活動



自立支援型ケアプランの推進

1～2か月ごとにオンラインで自立支援型地域ケア会議を開催。専門職からアイデアや意見をもらい、事例ケースの自立支援が行えるように支援している。

※2月の自立支援型地域ケア会議の様子

モビリティの導入

組み入れ対象者の外出機会を増やすことを目的とし、無料の「モビリティタクシー」（池田町社会福祉協議会が利用のコーディネートを行い「（株）ウィンタクシー」に運行を依頼するサービス）を2025年11月から導入。利用者の声を受け、2026年1月から運行エリアを町内全域とし、発車時刻を定めない自由な利用に切り替えた。

また、通いの場によって社会福祉協議会も送迎車を運行している。



※ウィンタクシー・社協の送迎中画像



出掛ける目的の増加・フレイル予防の普及

- ・社会福祉協議会が中心となり、男性が通いやすいサロン（スポーツボイス）の新規創設や、スーパーと通いの場が一体化したROCOCO 2号店等を運営し高齢者の通いの場を広げ続けている。
- ・高齢者の介護予防やフレイル啓発等のイベントも開催している。

- 介入地域の被験者の社会参加の選択肢が広がり、活動量・筋力・認知機能などの向上だけでなく、本人のコミュニティの維持が期待される
- 定期的な外出頻度の増加による活動量の増加を図り、6ヶ月後の事後調査時において、健康アウトカムの維持向上や介護給付費の抑制が見込まれる



要支援者



ケアマネジャー

ケアマネジャーの作成するケアプランが
介護保険サービス以外にも

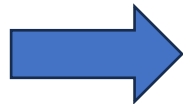


ヘルパーサービス



デイサービス

介護保険サービス



趣味や活動、社会参加も含めて、高
齢者が末永く元気に楽しく暮らすことが
できる地域にする～WellBeing～



松戸市にある、移動手段やモビリティを
活用して

松戸市の概況

面積：61.38km²

人口：501,624人（令和8年1月末現在）

世帯数：259,598世帯（令和8年1月末現在）

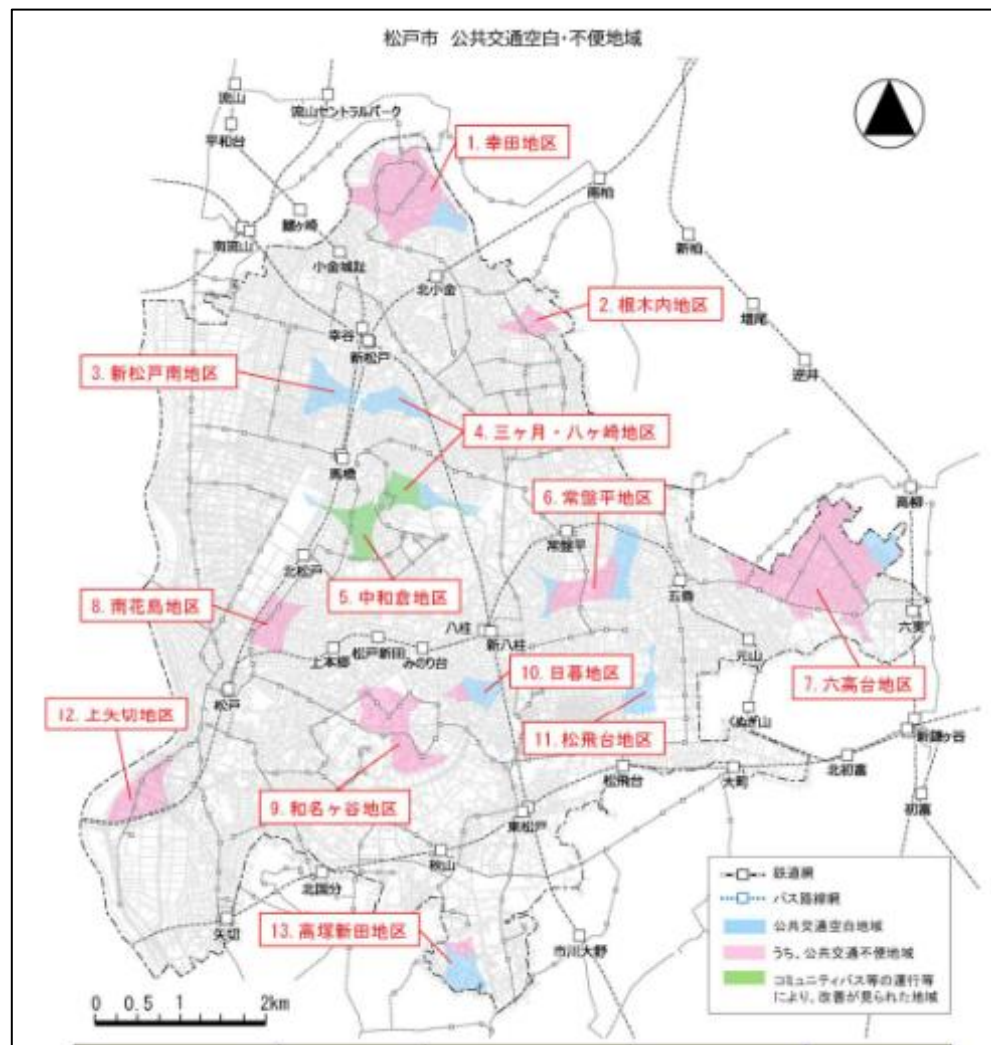
高齢化率：26.0%（2020国勢調査より）

松戸市の位置と公共交通機関

松戸市は都心から約20キロメートル、電車で約30分の距離にあり、首都圏の住宅都市として発展を続けています。松戸市内をJR常磐線（東京メトロ千代田線と相互乗り入れ）、JR武蔵野線、京成松戸線、東武鉄道、流鉄、北総鉄道の6本の鉄道が走り松戸市民の足となっています。



交通空白地域（水色）や交通不便地域（ピンク）



「最寄りの駅・バス停までの所要時間」、「路線バスの運行本数」及びそれぞれに対する「満足度」を考慮し、公共交通不便地域を設定しました。

出典：松戸市ホームページ「松戸市地域公共交通計画（案）」より

本市の福祉部門では、グリーンスローモビリティ【松戸モデル】を推進しており、高齢者の移動手段の確保にとどまらず、高齢者の差社会参加の促進や外出機会の創出を通じて、孤立化の防止、介護予防の推進、地域の活性化など、多様な効果が期待されています。

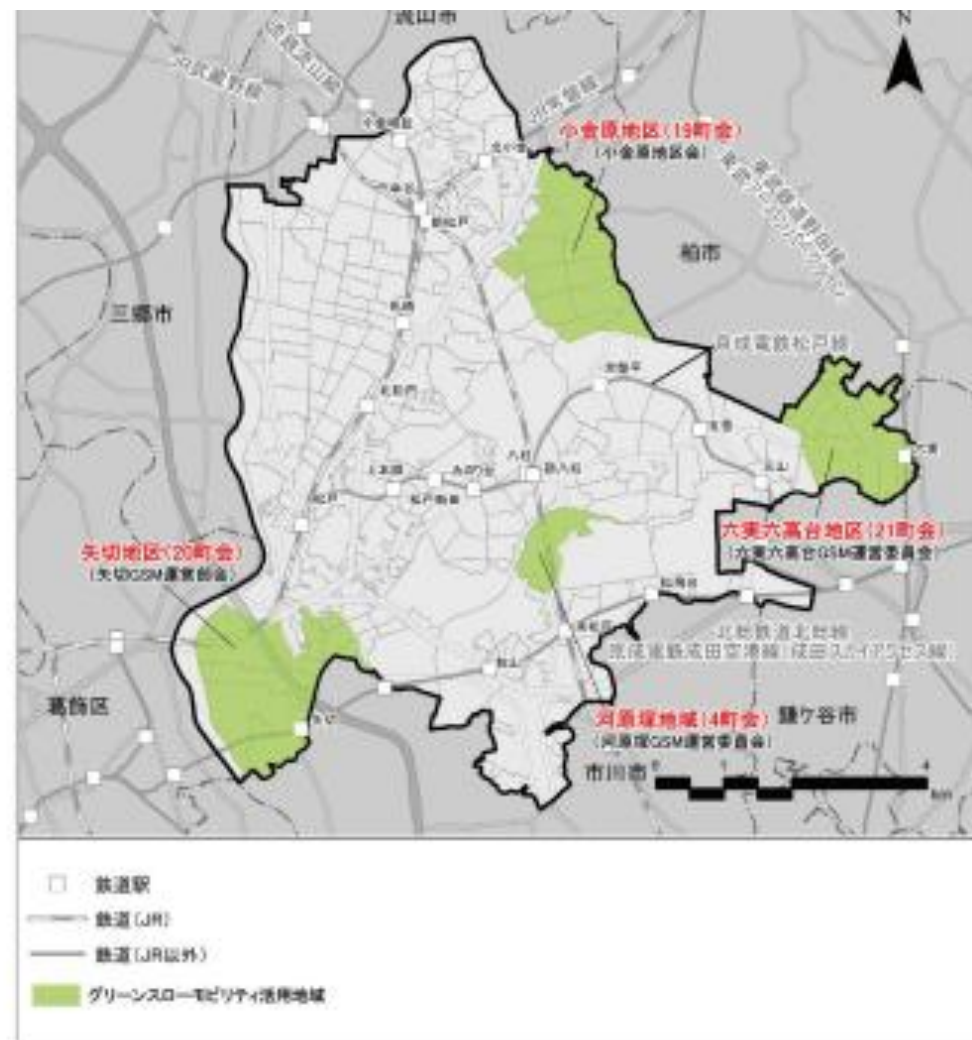
運用・運行は地域の「互助」により担われており、現在、河原塚地域、小金原地区、矢切地区、六実六高台地区の4つの地域で活用されています。

導入地域におけるグリーンスローモビリティ活用の様子



出典：松戸市資料

グリーンスローモビリティ導入地域



出典：松戸市ホームページ掲載の運行地域のルート図より作成

■ 2025年10月～ 対象者調査組入れ開始

＜組み入れ状況の推移＞

	介入群	対照群	合計
令和8年 3月3日時点	50件	31件	81件
令和8年 1月21日時点	25件	20件	45件

- ・市内15カ所に設置されている地域包括支援センターに協力を依頼し、対象者の組み入れを実施している。
- ・組み入れが円滑に実施できるように、市から地域包括支援センター向けに説明、資料提供をおこなった。
- ・また、11月5日～12月12日の間に、市職員とJMAR職員が合同で全地域包括支援センターを訪問し、再度説明を行い、個々の困りごとの聞き取りと組み入れの現状把握を実施した。

■ 介入群の活動状況

＜介入群が利用した移動手段＞

	グリーンスロー モビリティ	電車	バス	タクシー	家族などが運転 する自動車	その他
数値	3	15	18	11	25	1
割合	4.1%	20.5%	24.7%	15.1%	34.2%	1.4%

＜移動手段を使った行先＞

	買い物	通院	食事	趣味・交流	体操	その他
数値	32	15	8	14	2	7
割合	41.0%	19.2%	10.3%	17.9%	2.6%	9.0%

■ 行先や移動手段が増える活動



自立支援型ケアプランの推進

松戸市職員と連携し、介護予防ケアマネジメントに関係する研修会や移動手段を活用した事例検討会など、SIP事業に関係する機会を複数回実施。また、地域包括支援センターが定期開催している会議に参加し連携構築を行っている。

※8/8事例検討研修会の画像

モビリティの導入検討

グリーンスローモビリティは平日の午前午後1便以上運行する条件のもと、地区ごとの創意工夫で活用が進んでいるが、導入地区の拡大が課題となっている。グリーンスローモビリティの導入に向けた説明会とあわせ、マイカーボランティアなどの事例を学ぶ勉強会を開催している。



※2/4グリーンスローモビリティ説明会の画像

出掛ける目的の増加・フレイル予防の普及

- ・組み入れ開始に伴い、松戸市内に15か所ある地域包括支援センターを松戸市職員と合同でセンターに訪問し、利用者の活動量増加の考え方や組み入れ促進の説明を実施した。
- ・住民向けの啓発行事を実施した他、松戸市高齢福祉部門の職員や専門職向けに研修を複数回実施したことで、フレイル状態の高齢者が元の暮らしに戻るための支援を提供する手法や施策のあり方を周知することができた。